

立石科学技術振興財団

〔国際会議開催〕

申 請 者	京都大学 数理解析研究所 教授 長谷川真人	2045014
国際会議名称	国際会議 ICALP2015 及び LICS2015	
開 催 期 間	2015 年 7 月 6 日～7 月 10 日	
開 催 場 所	グランドプリンスホテル京都（京都市左京区）	
申請者の役割	組織委員長	

概 要：

理論計算機科学における中心的なふたつの国際会議 International Colloquium on Automata, Languages and Programming (ICALP2015) および Annual ACM/IEEE Symposium on Logic in Computer Science (LICS2015) を同時に開催し、最先端の研究の推進を行った。LICS と ICALP がアジアで開催されるのはいずれも今回がはじめてである。現在の社会において情報技術はほとんどすべての産業やインフラストラクチャおよび日常生活に深く浸透し必要不可欠なものとなっている。理論計算機科学はそれら情報技術の根本をなす理論的基礎であり、その成果は、長期および短期のスパンで、情報技術の革新・発展をもたらし続けている。理論計算機科学における最高峰の国際会議ふたつを京都で開催することにより、国内外の理論計算機科学の研究の推進と、国内の研究コミュニティの更なる発展に寄与することを目指した。特に、国内の若手研究者に刺激を与え、我が国の情報科学および関連諸分野の振興に貢献することを意図した。

幸い、ICALP2015/LICS2015 の開催は内外の研究者から広い支持と注目を集め、両会議あわせて 700 件を超える論文の投稿があった。本会議のプログラムはそれらの投稿論文から専門家の査読により精選された 204 件の論文の講演、および 7 件の招待講演と 4 件のチュートリアル講演からなる充実したものとなった。また、両会議および直前に開催された併設ワークショップ 8 件をあわせて、全体で 489 名（うち国内 161 名、国外 328 名）の参加があり、会議中は多くの活発な議論が行われた（本会議に限定した出席者数は国内 120 名・国外 290 名の計 410 名）。ICALP2015 の論文集は Springer-Verlag から、LICS2015 の論文集は IEEE Press からそれぞれ出版され、いずれも理論計算機科学の最高水準の成果として、今後当分野の重要な文献となることが期待される。